



TITLE:

再び育子教諭書について

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

---

CITATION:

本庄, 榮治郎. 再び育子教諭書について. 經濟論叢 1931, 33(6): 918-922

ISSUE DATE:

1931-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130111>

RIGHT:

（禁 轉 載）

會學濟經學大國帝都京

# 經 濟 論 叢

號 六 第

卷三十三第

行 發 日 一 月 二 十 年 六 和 昭

## 論 叢

家屋稅移管問題 . . . . . 法學博士 神戶 正雄  
景氣變動と前進變動 . . . . . 文學博士 高田 保馬

## 時 論

稅制整理を論ず . . . . . 經濟學博士 沙見 三郎

## 研 究

米穀の生産費に關する一考察 . . . . . 經濟學士 八木 芳之助  
指數吟味の基準 . . . . . 經濟學士 蜷 川 虎三  
清算市場取引の二形式に就いて . . . . . 經濟學士 今 西 庄次郎  
十九世紀末の國際農業恐慌 . . . . . 經濟學士 靜 田 均  
獨逸大銀行と中小工業金融 . . . . . 經濟學士 楠 見 一 正

## 說 苑

再び育子教諭書について . . . . . 經濟學博士 本 庄 榮治郎  
景氣變動の型より見たるドイツの失業 . . . . . 經濟學士 松 岡 孝兒  
中世の都市財政 . . . . . 經濟學士 大 谷 政 敬

## 附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題  
本誌第三十三卷總目錄

## 説苑

### 再び育子教諭書について

本庄榮治郎

一

私は本誌前々號に於て徳川時代における育子教諭書の一斑について述べたが、其後更に若干の資料を入手したから、茲に前説を補足したいと思ふ。先づ第一に述べべきは、「子孫繁昌手引草」のことであるが、最近入手したものに二種のものがある。その一は、表紙には題名の「子孫繁昌手引草」の上に「邊土民間」の四字を附したもので本文は半紙版三枚の木版刷で、最後の一枚には表裏に子返しこがへしの圖がある。何時頃何れの地方で行はれたものであるか明かでない。

仙臺市常盤雄五郎氏所藏の「善惡鑑」と題するものに

は「子孫繁昌手引草」と「赤子養育勸進の引」<sup>\*</sup>とが合綴されてゐるが、前者は右の手引草と同文のものである。たゞ繪圖には多少の相違がある。而して最後の頁の繪圖の下に『此書は何れの聖ひんぎより印施なるや誠に尊き書なり。今求んに便なし。よつて元本の儘、再版となし邊土に弘め一助ともならんことを希のみ』の文句が附け加へられてゐる。表紙には、羽州村山郡山形四日町吉野屋の丸印が押捺されてゐるから、これは多分其地方に流布されたものであらう。

前稿に述べた小野武夫氏所引の陸中國紫波郡地方に行はれた「邊土民間子孫繁昌手引草」と、右の手引草とを對校するに、引用されてゐる部分は、右の手引草の冒頭一頁の處に當り、大體同様であるが、必ずしも同文同字ではない。

最近入手した今一つの「子孫繁昌手引草」は「邊土民間」の四字を冠せず、表紙共半紙判六枚の木版刷であるが、文字も繪圖も鮮明である。内容は右の手引草と大體同様であるが、多少詳しく記されてゐる部分があ

\* 前稿所掲のものと同一のもの

る。繪圖は本文の次に半枚即一頁に収めてある。その繪圖の次に『此一冊は人としてつゝしみいましむべきことにて、一度おかせば其大なるつみのがれがたき故よしを、あまねくしらしめんがために印施するものなり。京八條▲喜謹識』とあり、更にその次に、漢文を以て八幡濱芳友堂邦憲が一版を鏤め施本する旨が記され、萬延元年五月であることが明かである。尙、和文にて同様施本のこと記され施本主として豫州宇和島八幡濱吉野屋辨治と明記してある。この吉野屋辨治と芳友堂邦憲とが同一人であるか、或は別人であるかは尙考へ及ばざる處であるが、何れにしてもこの手引草が、先づ京都にて施本され、更に伊豫にて施本されたことは明かである。従つて子孫繁昌手引草の流布の範圍が、前稿に示せし如き關東東北地方のみならず、關西四國方面にも略同様のものが流布されてゐたことが明かであらう。猶或は更に廣く全國的に流布されてゐたものかとも思はれるが、そは後考を俟つの外はない。

## 二

再び育子教諭書について

次には「育子篇」のことであるが、これにも同じ題名のものにて種々なる内容のものゝ存することは既に前稿に述べし如くであるが、最近四六判形六十三枚の寫本で「育子篇」と題せるものを接手した。これは育子に關する種々なるものを集録せるものであるが、最後の一枚には「右育子の事書付候を集めて一冊とし名て育子集といふ。岡埜庄五郎集」とあり、次に「文政二己卯年六月。大高嘉助寫」とあるから、本書は實は「育子集」といふべきものであり、岡埜氏の集綴したものを文政二年に大高氏が自己所用の野紙に寫したものであつて、原本は必ずしも四六判形の寫本ではなく、木版のものもあり、又半紙判のものゝあつたことは、類書と對照せし際之を明かにすることを得た。そは兎も角、この「育子篇」の中に集められてゐるものは次の如くである。

(イ) 先づ寛政三年五月、享和三年五月及文化元年十月の育子教諭令を載せ、それに續いて下野黒羽鈴木武介の署名ある教諭文言を掲げてゐる。右の教諭令も恐

らく黒羽藩のものではなからうか。

(ロ)御尋に付申上候覺。新庄駿河守家臣手賀彌太郎署名のもの。間引矯正の状況を上申したもので、酉十一月とあつて正確な年號は明かでない。その要旨は先年來懷胎改のこと行はれ困窮人へは米一俵或は二俵を下賜されたが、去年凶作のため不行届となり、未年再び出生届出を令したが、届出數少く陋習絶へ難きものと考へられる。よつて是迄通り養育米を下附し、其上に不仁の行爲をなさざるやう教諭せなければならぬ。それにも尙舊弊を改めざるものは罪科として非人の手下に下さることゝすべきである。元來かゝる陋習の行はるゝは男女の道正しからざるより起るものであり、又領内の醫業に従へるものは遠近に限らず仁術を盡し、産婆等も同様相心得べきものである。かくなれば追々人別増加するに至るであらうと説いてゐる。

(ハ)育子編。これは前稿に紹介した寛政三年五月水戸江幡次郎右衛門の印行頒布せしものを筆寫せるものである。

(ニ)寛政十二年四月下總相馬郡升野村某の施本にかゝる教諭書。日本は神國であり、神々の力によつて生れ出づるものであるから、子をよく育つるものは神によつて相應の福分を授かるものであると説いてゐる。

(ホ)育子圖説。東蓮寺村猿田玄顯の記したもので、「およそ世間の人、子をまびくの根元は其起さまゝ有といへども、先づ見苦しくはそだてまじと思ひ、己が身の勞する事を厭、又は身代の不益などおもひ過して畜生にも劣りたるふるまひをなしぬ。今左に圖する所は、身も勞せず家業のさはりにもならず、いかにもそだてらるゝの手段なり」とあるによつてその内容は明かであらう。

(ヘ)育子草。寛政三年五月常陸瓦谷山人元蟾子記とあり、種々の例を引いて間引の矯正を勧めしもの。木版刷のものあり。

(ト)寛政三年四月、大門村御山横目黒羽次郎右衛門が御郡方御役所へ提出せる育子意見書。間引の行はるゝ原因を説き、之れが矯正の方法を説いたものである。

(チ)以上の外、巻末に間引の人倫に悖れる所以を説き育子を勸説せるもの二篇を載す。

以上説く所によつてこの「育子篇」なるものゝ内容は略ぼ明かであるが、その多くは寛政年間のものであり、また常陸より東北地方に行はれてゐたものを集めたものゝ如く考へられる。

### 三

右の「育子篇」には數種の子がへしの圖があるが、それは「子孫繁昌手引草」に出づるものと類似のものである。金澤春友氏編「寺西代官治績集」にも同様の繪が載せられてゐる。嘗て白河樂翁公は地獄の繪を各戸に配布して教戒に資したといふことが傳へられてゐるが、それが如何なるものであつたかは猶明かでない。本年八月刊行の村越慶三氏編「白河に於ける樂翁公」には江戸靈岸寺上人の献上にかゝる「地獄かへしの圖」を公は白河常宣寺へ下賜し、それが同寺の寶物として今尙保存されてゐるが、その圖は「竪六尺、横二尺五寸にも餘る大幅にして先づ上部には神佛照鑑、閻王判斷、殺

害之害、浮玻璃面、自業自得、墜落如矢、號天喚地、重苦焉免といへる受苦の圖賛を題して天照大神、阿彌陀如來の像を畫き、其下には産婦の胎兒を絞殺する處、胎兒殺の照魔鏡に映する所、閻王の斷獄、地獄の墜落に及び、大小の惡鬼の苛責に遭ひて、遂に血の池に投ぜらるゝ様等を畫き一見悚栗せしむ。(三二頁)とある。それが各戸配布のもと同様の圖であるか否やは明かでない。「民政史稿賑恤救濟篇」には文久慶應の頃、僧法道なる者、備前備中各村を廻り、地獄の繪額を神社佛閣等人の群集する處に掲げたと傳へられてゐるが、その圖は「嘗て松平定信が白河に城主たりしとき、其地方に墮胎者多きを慨し、名工谷文晁をして血の池地獄の圖を畫かしめ、因果應報の恐るべきを示したるものと殆んど大同小異なりといふ」(二二七頁)と記してゐる。この血の池地獄の圖が、子かへしの圖と同一のものでないことは想像し得る所である。

要するに、子孫繁昌手引草の如き教諭書といひ、また子かへし圖、地獄の圖といひ、何れも人の耳目に入

り易き方法によつて、救済の徹底を期せんとしたこと  
は相當廣き範圍に亘つて行はれたものゝ如くであつて、  
育子米金の制度と共に注意すべきことであらう。

---